

**大阪市立大学と大阪府立大学について、学生との合意のない統合撤回を求める陳情書**

**[陳情趣旨]**

「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を基にした大阪市立大学と大阪府立大学の統合案が、いまも府・市・両大学の間で進められていると知り、当事者である私たち学生はとても不安に思っています。

- 1) 大阪市立大学と大阪府立大学は、それぞれに建学の精神を異にする大学です。社会的役割も、育成する人材像も、歩んできた歴史も、育んできた気風も、守ってきた伝統も異なります。その上で私たち学生はそれぞれの大学を選択して入学してきました。異なる大学同士を統合して新しい大学に生まれ変わらせることは、どちらの大学の個性も喪失させることであり、校舎が同じであったとしても、私たち両大学の学生が選んだ大学ではなくなってしまいます。また安い授業料で学べる二つの公立総合大学があることは、選択の幅が広がったという点で私たちの進路においても大きな意義がありました。

この構想の推進過程において私たち学生はずっと排除されてきました。学生向けの説明会はいまだに一度も開かれていません。両大学の学生は統合の影響を最も強く受けるステークホルダー（利害関係者）です。統合に関する説明がなされないだけでなく、その過程に学生が加えられないのであれば、より良い大学になるとは思えません。特別区設置住民投票の前でさえ大学からは何ら説明がありませんでした。今後の大学のあり方を考えるに向けて、学生に説明・議論する場が設けられていないということは、最初から私たち学生の意見は考慮するつもりがなかったのだと思わざるを得ません。また大阪市立大学には今回の住民投票権のない学生も多くいました。自分たちが通う大学が住民投票の結果によってどのように変わってしまうのか（たとえばキャンパスはどこになるのか、サークルや部活はどうなるのか、いつから統合されるのか、教育の質は低下しないか、大学の伝統や気風はどうなるのか、学費に影響しないかなど）、分からないことばかりの中で住民投票日を迎えねばならなかったことは精神的に大きな苦痛でした。私たち学生のみならず、両大学と共に過ごしてきた多くの市民や卒業生、保護者も同様に十分な説明を受けることなく今日に至っています。

- 2) 住民投票では「二重行政」の一つとして大学統合の是非も問われ、そして住民により反対多数で否決されました。住民投票による意思決定を軽視することは許されません。住民投票以外でも、在学生による陳情書、パブリックコメント、種々の団体による批判声明、一万筆以上の署名といった形で、私たち学生のみならず、多くの市民、卒業生が統合反対の声をあげています。こういった声に対して何一つ応答しないまま生まれる新大学が、自治体住民、広くは日本社会全体の要求に応じて行く大学になるのか甚だ疑問です。またこの構想作成の経緯を振り返ると、両大学内で民主的議論が行われた結果、内発的要求として統合という結論が生じたとは思えません。大学内外どちらにおいても議論が十分尽くされたとは言えない状況で、最初から統合を前提にして強引に推進することは、民主的な大学運営の伝統を尊重したやり方とは言えません。

私たち学生は、もうこれ以上一方的な決定に振り回されるのは耐えられません。

当事者である私たち学生や両大学の行く末を案じる人々に対して、きちんとした説明もないまま、私たちの声に応答することもなく、強引にこの構想を押し進めることはやめていただきたく、下記のとおり陳情いたします。

**[陳情項目]**

- 一、大阪市立大学と大阪府立大学について、学生との合意のない統合はやめてください。

以上

2015年9月17日

陳情者 「大阪の公立大学のこれからを考える会」（市大・府大学生有志の会）

代表者

住所

電話番号